

令和5年度【大田区立東調布第一小学校・社会科授業改善推進プラン】

◎ 小学校社会科における分析

	4年	5年	6年
学習効果測定 の結果の分析	どの領域・観点においても、目標値、区全体の正答率、全国正答率を概ね上回っているが、「安全を守る働き」「市の様子の移り変わり」については、目標値を下回っている。	どの領域・観点においても、目標値、区全体の正答率、全国正答率を大きく上回っている。特に「自然災害からくらしを守る活動」は高い数値である。	どの領域・観点においても、目標値、区全体の正答率、全国正答率をほぼ上回っている。
観点別結果	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知識・技能の観点は、4・5・6年生共に、目標値、区平均正答率、全国平均正答率より上回っている。	思考・判断・表現力の観点は、目標4・5・6年生共に、目標値、区平均正答率、全国平均正答率より上回っている。	主体的に学習に取り組む態度は、4・5・6年生共に、目標値、区平均正答率、全国平均正答率より大いに上回っている。

◎ 社会科の今回の調査における課題

- ・どの学年も「基礎」「活用」共に、目標値、区の平均正答率、全国平均正答率より、概ね上回っているが、全ての項目ではないので、今後も学習を定着できるように指導をしていく必要がある。
- ・「解答形式」では、「記述」については、目標値、全国平均正答率より大きく上回っていることが伺える。考える力や書く力の指導を大切に、記述回答の力をさらに育てていくことが課題である。
- ・4年「安全なくらし」の「交通事故の発生件数について、資料を読み取っている。」の項目については、目標値よりも下回っていたため、資料の読み取りの力を育てていくことが課題である。
- ・6年「日本の水産業」の「さいばい漁業の利点について、資料をもとに考えている。」の項目については、目標値よりも下回っている。資料を確実に読み取り、重ねて考え判断する力を育てていくことが課題である。

◎ 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果◇と課題◆

- ◇ 全学年、基礎、活用は、目標値、区平均値、全国平均値を概ね上回っているため、改善への取組の成果が出ている。
- ◆ 表やグラフ、各種複数の資料を読み取り、重ねて考え判断する力を育てる指導を丁寧に行い、資料の読み取りの力を確実に付けさせていく必要がある。
- ◆ 3年生の社会科学学習導入の時期に、地図遊びや街探検を取り入れることで、地図や方位、等高線への知識・理解を高めたり、地域の様子に興味をもち社会科の学習に意欲的に参加できるようにしたりし、社会の資質・能力の基礎を育成していく。
- ◆ 問題解決的な社会科学学習の流れを一層大切にしていける必要がある。

◎ 社会科の具体的授業改善案

- 問題解決学習(つかむ 調べる まとめる)の授業の流れを、社会科の全ての単元で行っていく。特に「つかむ」の社会的事象と出会う段階では、児童に驚きや疑問が湧き起こり、はっきりさせるために調べてみたいと思わせるような資料との出会いや体験をさせ、単元を貫く学習問題をクラスの児童みんなで作ることが大切である。学習問題を解決するために、必要な調べ方を児童が考え、調べ、体験し、まとめていく意欲にもつながると考える。ICTの効果的な活用を指導していく必要がある。
- 3年入門期における地図指導では、「大田区の地図」及び地図帳を使って、地図遊びや索引遊びをし、地図に親しむ時間を十分に設定し、地図の楽しさを味わわせ、読み取る力を育てる。また、街探検を行うことによって、地域に興味をもち社会的な見方・考え方を育む足掛かりとなるだろう。これらの学習が社会科を好きになる児童を育てる大切な要因になると考える。資料の一つである地図を読み取る力を3年入門時に育てることは、その後の学習における各種の資料を読み取る力を育てることにつながると考える。